

死亡時医学検索推進会議 による院内状況の変化

CLINICAL REPORT

- 1) 筑波メディカルセンター病院 放射線技術科
2) 茨城県立医療大学 放射線技術科学科
3) シンワメディカルリゾート柏の葉 放射線科
4) 筑波メディカルセンター病院 救急診療科

吉田昌弘¹⁾、小林智哉²⁾、加賀和紀¹⁾、齋藤 創¹⁾、染谷聡香³⁾、
田代和也¹⁾、山盛萌夕¹⁾、倉持里帆¹⁾、宮本勝美¹⁾、阿竹 茂⁴⁾

死亡時医学検索推進会議の開催前後での院内状況の変化を調査した結果、病理解剖前のAi実施率は増加した。また、緩和医療科と循環器内科の入院死亡に対するAi件数が増加し、全体の入院死亡Ai実施率が増加した。医局会で実際のデータを示し、Aiを撮るべきだった症例を報告したことで、医師の意識向上がみられた。

We investigated changes in our hospital situation before and after the cause of death investigation promotion conference. The postmortem imaging (PMI) implementation rate before pathological autopsy increased after the conference was held. In addition, the PMI implementation rate of hospitalized deaths was also increased. The number of hospitalized deaths PMI were requested by the palliative medicine department and the cardiology department increased. Presenting data at the medical office meeting and reporting the cases has raised doctors' awareness of PMI.

背景

病院における死亡時画像診断：Autopsy imaging (Ai) は外来死亡症例、入院患者の突然死などの死因究明のために行われている。当院は1985年開院時から外来死亡症例のAiを積極的に行ってきたが、入院死亡例の死後画像検査は消極的だった。一方、医療事故調査制度が施行された2015年から、医療安全委員会によって全死亡症例の調査を行い、医療に起因する予期せぬ死亡の検討が行われている。この検討により、入院患者が経過中に急変して死亡に至る症例で、死因が明らかでない場合でもAiを行わない症例があることが判明し、Aiを適切に実施すること

が必要と考えられた。

そこで、2018年9月、病院全体の死後CT：Postmortem CT (PMCT) の推進と病理解剖の推進を目標とした死後画像検査・剖検推進計画が立案された。

当院では2018年より、死亡時医学検索推進会議を月1回の頻度で定期開催している。きっかけは2018年7月に茨城で開催されたAi学会学術総会だった。

当会議開催の背景には下記の状況があった。

- 救急外来で救命できなかった症例(外来死亡)のAi実施率はほぼ100%である一方、入院死亡(予期せぬ死亡を含む)のAi実施率が著しく低かったこと。
- 病理解剖の実施率が低く、主治医から病理解剖の説明が十分でない可能性があったこと。

- 病理解剖を行う前のAiの意義について、院内で周知と理解が不十分であり、Aiを行わずに病理解剖が実施されていたこと。

目的

死亡時医学検索推進会議の開催前後での院内状況の変化を調査したので報告する。

方法

1. 会議の概要

死亡時医学検索推進会議の様子を図1に示す。